

経営(継業)のツボ

理念



転期に立つ経営者の資質の鍛え方⁶²

水滴穿石

早川浩士

有限会社ハヤカワプランニング代表取締役

はやかわ・ひろし

経営コンサルタント。1991年に独立。介護事業に関する独自の調査に基づいたデータ分析を各誌・紙に発表。著書に「早川浩士の常在学場」(簡井書房)、「介護人財創造塾」(簡井書房)、「介護保険改正に勝つ!経営」(年友企画)、「データで徹底分析 介護事業の最新動向と経営展望」(日本医療企画)など。

http://www.hayakawa-planning.com
ブログ: http://ameblo.jp/hayakawa-planning/

みずしたたりていしをうがつ

「水滴穿石」は、みずしたたりていしをうがつとも読まれ、出典は『漢書』枚乗にある。

大きな石にポタリ、ポタリと垂れ落ちる水滴の一滴の量はわずかでも、その一滴一滴が長い年月を繰り返して続ければ、やがてその石に穴を開けるようになる。

今、力が足りなくても根気よくできることをコツコツと続けていけば、いずれ目的を果たすことができるということのたとえ。

軒から落ちる雨の滴も、たえず同じ場所に落ち続けると石に穴を開けることさえあるという意を含んだ「雨垂石を穿つ」や「点滴穿石」なども同じ。

大きな石(将来の目標)に穴を開ける(目標実現)ためには、水滴の一滴(毎日の努力)の積み重ねを怠ってはならないということができ

る。「能力がない」と、自らを卑下する人がいる。

さしずめ、毎日の努力を諦めるように「能力」を使っているだけのこと。

(能)力が足りなくても根気よく

できることをコツコツと続けるための諦めない(虚仮の一念、岩をも通す)という(能)力を養う指導が介護現場には必要だ。

ひとつのことを、問いかけるようにしながら目標実現のために積み重ねていく毎日の努力すべき姿勢を言葉として表していることに感心させられたのである。

昨年末に訪問した介護事業所の玄関に掲げられた額に記された言葉が目飛び込んだ。

そこには、「常に病める人ともにあれ」と「5つの反省」が掲げられていた。

「私たちがめざすものは日本のこころです」から、始まる。

①真心を尽くしているか
②言行に恥じるところはないか
③氣力に欠けるところはないか
④努力に不足はないか
⑤無情な一日を過ごしてはいないか

忘れてはいませんか

「しかた(仕方)がない」

ねぎらう気持ち

「しょう(仕様)がない」

失ってはいませんか

と嘆くのは簡単だ。

感謝のこころ

「しかた(仕方)はある」

無くさないでください

「しょう(仕様)がある」と、一人ひとりのこころのあり方を水滴穿石することである。

思いやり

このような人となりを身につけるため、介護保険制度の第一線を支える介護事業者の人づくりへの働きかけこそ、大いなる社会実験ではなからうか。

持っているはずですが

変わるこころのない日本のこころ

やさしさも

当然のことであると言え、それまでのこと。

贈ってください

だが、めざす目標について一つ

真心を

変わるこころのない日本のこころ

やさしさを

を大事に育みたい。